
組み間違いにはご用心

水色ペンキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

組み間違いにはご用心

【Nコード】

N3545E

【作者名】

水色ペンキ

【あらすじ】

レストランでの夕食は、楽しいデートになるはずだった。だが彼と顔を合わせたあたしは、破局が間近であることをすぐに見てとる。素敵な彼の裏切りと、哀しい別れのものがたり。……と、いうほどシリアスなものではありません。

「あなた、ゆうべあの女と寝たでしょ」

あたしがそういうと、彼は得意げに語っていた武勇伝をふつとりと止めた。ナイフとフォークの動きが止まって、その先端が宙に泳ぐ。彼はいかにも心外だといったげに目を丸くして、あたしの顔をまっすぐに見た。

「そんな。僕は誠実な男だ」

コイツ、時代がかった台詞を吐きやがる。こういう演技はバッグンに上手い男なのだ。あたしはそれを無視して、コルシカ産とかいう赤ワインをぐいっとあおった。

「彼女とひとつになる気分、どんなだった？」できるだけ嫌みをこめていつてみる。

「誤解だよ。どうしてそんなこと思いついたんだい？」

「あなたの顔に書いてあるの」

「まさか。『あなたの素敵な彼は、わたしが頂戴いたしました』とでも？　僕は一人の女性しか愛さない。君も知っているじゃないか」彼の頬がわずかに引きつっている。

「昨日までは、あたしもそう思っていたわ。学校でそう習ったもの。信用したあたしのミスよ。悪いけど、あなたとはもうこれでお終いにさせて頂きます」

あたしはそう言い捨てると、手早くテーブル・ナプキンで口の端を拭った。ハンドバックを手に掴み、椅子を蹴立てて立ちあがる。こういう場合、決然と振る舞わないと情に負けてしまうのだ。だって未練がないわけじゃないもの。

「待ってくれ。昨日の晩、僕は君の部屋にいたじゃないか。そんなこと、できるはずないよ」

「できるはずのないことをやったんでしょ。あなたらしいじゃない。触らないで！」

手を握って止めようとした彼の胸を、あたしは思いきり掌で突いた。途端に彼の服にヒビが入り、音を立てて全身に広がってゆく。ああ、やっちゃった　でも、彼のせいよ。しかし、この期に及んで私の目をじっと見すえる強い意志はさすがだった。この伊達男、いままで一体どれくらい沢山の人間を騙してきたんだろう。だが体を砕く不調和の波はあつというまに彼の全身を覆い、服も肉も彫りの深い顔も一緒に崩れ落ちて、あつという間に四千個の力ケラに分解してしまった。

ばらばらと音たてて赤い絨毯に広がった彼のピースを無視して、あたしはつかつかと出口に向かう。後ろで彼がウェイターに「掃除機は止めてくれ！」と叫んでいるのが聞こえた。会計には彼がフラン・ジェルミナルで支払うと告げ、あたしはレストランをあとにする。

まったく人をバカにしている。一晚だけ箱を並べたからって、すぐにあんなことになるなんて。彼　ナポレオン　の頬のピースが、ひとつモナリザと入れ替わっていたのだ。

あーあ、しばらく人物画はやめよう。そういえばペンギンの二千六百ピース、ショップに入荷してた気がするな。今度はあれ、やろうかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3545e/>

組み間違いにはご用心

2010年12月15日14時35分発行